

事務事業名	基幹配水池更新事業	事業期間	～	年度	係内番号	02
担当部署	都市建設部	水道課	水道整備係	連絡先	667	

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0303	上水道の整備方針		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0303	上水道の整備方針		
			実行計画	11	水道ビジョン（水道事業特別会計）	0000	複数の柱にまたがる事業		

予算事業名	基幹配水池更新事業	会計コード	21	款	01	項	01	目	02	事業	43
-------	-----------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要  
（簡潔にわかりやすく）  
配水池は取水施設から取り入れられた水を水道利用者へ安定的に水道水を給水するための施設である。茅野市上水道には49箇所の配水池があり、その多くは築造されて既に50年以上が経過し老朽化が進んでいる状況にある。そのため、計画的に配水池を更新して水道水の安定供給を図るとともに水質の保全を図るものである。

現状と背景  
（どうして）  
49箇所の配水池が現在稼働しており、多くの配水池は老朽化が進んでいることから、計画的に更新を図る必要がある。緊急時対応の強化、配水区域の安定供給の観点から、市街地を配水区域に持つ、北大塩中区配水池及び埴原田配水池、蓼科湧水を有効利用するため蓼科第6配水池等の基幹となる施設の更新を優先して行う。

目的  
対象  
受益者（誰のために）  
給水区域内住民  
対象（直接働きかける）  
同上  
意図（どんな状態にしたいか）  
施設の更新を行うことで、必要容量の確保と耐震化をし安心・安全・安定した水道水の供給と水資源の有効利用を図る。

手段・方法  
（どうやって）  
安定した水を供給できるように、適切な容量の確保と耐震性を有する構造の配水池に更新する。  
北大塩中区配水池 容量V=2,100m3  
埴原田配水池 容量V=2,500m3  
蓼科第6配水池 容量V=200m3

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	基幹配水池を更新する	配水池更新数	箇所	計画配水池更新数	3
		2					
		3					
	変更履歴						
	成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	配水池耐震化容量(24,031m3)	配水池耐震化率	%	(耐震済配水池容量) / (全配水池容量) × 100	30
		2					
		変更履歴					

実 施 状 況 （ D O ） 考	項	目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	財 源 内 訳	事業費等(a)		円	1,112,470,665	629,097,000			
		国庫支出金		円	42,650,000				
		県支出金		円					
		地方債		円					
		その他特定財源		円	1,069,820,665	629,097,000			
	活動指標	配水池更新数	目標	箇所	3	3			
			実績		1				
			達成率	%	33.33	-	-	-	-
		-	目標						
			実績						
			達成率	%	-	-	-	-	-
	成果指標	配水池耐震化率	目標	%	30	30			
			実績		21				
		達成率	%	70.00	-	-	-	-	
-		目標							
	実績								
達成率	%	-	-	-	-	-			

事務事業名	基幹配水池更新事業		事業期間	~	年度	係内番号	02
担当部署	都市建設部	水道課	上水道整備係			連絡先	667

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果 要因 分析	北大塩中区配水池は、計画どおり2018年度末に運用を開始した。				
	総合評価 課題	北大塩中区配水池は、予定どおり運用を開始し、2019年度の外構工事実施により事業完了となる。埴原田配水池は実施設計がほぼ終了し、事業に向けて地元調整に入っている。蓼科第6配水池は事業用地が確定し、詳細設計を実施する。 今後、埴原田、蓼科第6配水池の整備時期が重複することから、事業費やマンパワーの適正配分を行う必要がある。				
	改革・改善の方向性(ACIT)の 内容 策 び 容	現状維持 現状維持 今後、施設修繕や更新事業は長期間に継続的に実施しなくてはならないため、埴原田、蓼科共に事業コスト削減について検討が必要である。また、大型事業による地元住民への理解と協力を得るため、きめ細やかな説明を心掛けたい。				

作成担当者	両角敏行				
最終評価責任者	柳沢昭弘				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	原水・浄水事業	事業期間	～	年度	係内番号	01
担当部署	都市建設部	水道課	給水維持係	連絡先	665	

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0303	上水道の整備方針		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0303	上水道の整備方針		
			実行計画	11	水道ビジョン（水道事業特別会計）	0000	複数の柱にまたがる事業		

予 算 事 業 名	会計コード	21	款	項	目	事業
-----------	-------	----	---	---	---	----

事務事業の概要  
 (簡潔にわかりやすく)  
 上水道の原水を得るため、水利権のある区、財産区等と原水料金の契約や支払いや水道施設のため借りている土地の賃貸借契約と支払いを行う。  
 また、原水浄水について水道法に基づく、水質検査項目を検査頻度に応じ水質検査を行う。

現 状 と 背 景  
 (どうして)  
 上水道の安全安定供給

目 的  
 対 象  
 受 益 者  
 (誰のために)  
 上水道の需要者  
 対 象  
 (直接働きかける)  
 同上  
 意 図  
 (どんな状態にしたいか)  
 上水道の安全安定供給

手 段 ・ 方 法  
 (どうやって)  
 支払い事務の遂行  
 水質検査の徹底

評価指標の作成	活動指標	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
1	1	水質検査の実施	箇所	原水48箇所、浄水31箇所の検査実施	79
	2				
	3				
変更履歴					
成果指標	成果指標	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
1	1	上水道の安定供給	%	原水浄水の水質の安全箇所/79×100	100
	2				
変更履歴					

実 施 状 況	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
財 源 内 訳	事業費等(a)	円	102,433,364	139,881,000			
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	102,433,364	139,881,000			
活 動 指 標	水質検査の実施	目標	79	79			
		実績	79				
		達成率	100.00	-	-	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	-				
成 果 指 標	水質の安全性	目標	100	100			
		実績	100				
		達成率	100.00	-	-	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	-				
備 考							

事務事業名	原水・浄水事業	事業期間	~	年度	係内番号	01
担当部署	都市建設部	水道課	給水維持係	連絡先	665	

事業 評価 価値	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成果変果動指要標因分～析	変化なし				
	成果	異常なし				
	総合評価	特に無し				
改革・改善の方向性(ACIT)	翌々年度方向性	成果 コスト	現状維持			
	改革やコストの方向性の内容	上水道を安全安心に供給するために、水道施設に係わる維持管理、配水池水源の点検、環境整備、水道施設緊急修理、修理用資材管理、配水調整を行う事業であり、確実にを行う必要がある。				

作成担当者	鷹野 鉄也				
最終評価責任者	柳沢 昭弘				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	老朽管更新事業	事業期間	～	年度	係内番号	01
担当部署	都市建設部	水道課	水道課	上水道整備係	連絡先	667

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0303	上水道の整備方針		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0303	上水道の整備方針		
			実行計画	11	水道ビジョン（水道事業特別会計）	0000	複数の柱にまたがる事業		

予算事業名	老朽管更新事業	会計コード	21	款	01	項	01	目	02	事業	43
-------	---------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要  
（簡潔にわかりやすく）  
水道管の機能は安定した水量と水圧を確保しながら住民へ確実に上水道を輸送することである。管路が老朽化することにより出水不良、漏水事故等の発生につながり、住民に大きな影響を及ぼすことになる。安定して水を持続的に供給するため、老朽化した管路更新を継続して進めることが必要不可欠である。

現状と背景  
（どうして）  
老朽管としては、石綿セメント管（ACP）・硬質塩化ビニール管（VP）等の衝撃に弱い管と、対応年数を越えた管路があり、今後も継続して布設替え工事を進める必要がある。また、避難所や拠点医療施設等の重要給水施設へ給水している基幹管路においては、地震等の自然災害時も確実に給水できるよう管路の耐震化も同時に進める。

目的  
受益者（誰のために）  
給水区域内上水道利用者  
対象（直接働きかける）  
同上

意図（どんな状態にしたいか）  
老朽管の更新を進めることにより、安定・安心な給水と水資源の有効利用が図れることと、地震時等の災害時において確実に給水を維持することができる。

手段・方法（どうやって）  
老朽管を更新する際に地震等に強い耐震管に布設替えし、老朽化更新と同時に耐震化を図る。北大塩中区配水池から諏訪中央病院への耐震化を図る。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	老朽管の布設替え更新する。	更新延長	m	年間更新延長	4,000
成果指標	変更履歴	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	老朽管（ACP・VP）をすべて布設替する	老朽管更新延長	km	老朽管更新済延長	675
		2	基幹管路すべてを耐震化する	基幹管路耐震化率	%	$(\text{基幹管路耐震管延長}) / (\text{基幹管路延長}) \times 100$	25

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	254,714,443	110,423,000	
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	254,714,443	110,423,000			
活動指標	更新延長	目標	m	4,000	4,000		
		実績		5,900			
		達成率	%	147.50	-	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
成果指標	老朽管更新延長	目標	km	675	675		
		実績		628			
		達成率	%	93.09	-	-	-
	基幹管路耐震化率	目標	%	25	25		
		実績		11			
		達成率	%	44.00	-	-	-

備考

事務事業名	老朽管更新事業		事業期間	~	年度	係内番号	01
担当部署	都市建設部	水道課	上水道整備係			連絡先	667

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果要因分析	早期発注や関連事業との調整により、計画を大幅に上回る成果を得ることができた。				
	総合評価	年間計画更新延長4kmを大きく上回る6kmを更新実施することができた。				
	課題	管延長及び老朽管延長が長いこと、全管を整備するには年数が必要であり、今後は法定耐用年数を超える管路が増える傾向にある。				
改革・改善の方向性(ACIT)	翌年度方向性	成果 コスト	現状維持			
	改革・改善の方向性の内容	全延長が長く老朽管も今後多くなることが予想されることから、上水道単独工事のみではなく、他事業との計画を整合することで、よりコスト削減を図り事業費をおさえていく必要がある。併せて重要管路は早急に耐震化を進め、非常に備えなければならない。				

作成担当者	両角敏行				
最終評価責任者	柳沢昭弘				
最終評価年月日	2019年5月17日				